

豊かな森林の保全を願い
森づくりに1千万円を寄付

丸玉産業株式会社の大越敏弘社長が6月20日に町長室を訪れ、「地域の森づくりのために役立ててください」と、町に1千万円の寄付をされました。また、今回を含めて今後5年間で5千万円を寄付することも伝えられ、町では「丸玉産業森づくり基金条例」を創設して、これまで実施してきた「愛林のまち緑資源を守る推進事業」を充実し、今後も造林や森林管理などの事業に対して補助を行なうこととしています。

佐藤町長は「大変貴重なお金なので、大切に使用させていただきます」とお礼を述べていました。



6月28日にフォーラム開催
まちづくりへの思いを語る

「町は舞台、主役は町民」『夢を形に変える』田舎工房のまちを目指したい」と町長からあいさつがあり、町づくりフォーラムが開始された。

パネルディスカッションでは、藤本隆司さんから「看板がダメなら町外から来た人を歓迎していない町と思われる。統一した津別らしい看板を」、大西重成さんからは「最初に何かをする人は馬鹿扱いされるが、そんな人を応援したい。自然に憧れ都会から来る人をサポートする仕組みが必要」、曾根教勝さんからは「地産地消には程遠い。これが津別のブランドと言える町になってほしい」、上田幸子さんからは、「多くの人に支えられ、つながりが広がって寂しい思いが解かれていくことができた。私と一緒に子育てをしましょう」など、町の現状や率直な思いが語られ、会場に訪れた方々も真剣な議論に聞き入っていました。



夏の交通安全強化週間に伴い
青葉幼稚園児が交通安全を呼びかける！



7月10日、青葉幼稚園児45人が夏の交通安全運動に併せて大通りの国道240号沿いで自分たちで描いた小旗を振り、走行中のドライバーへ安全運転を呼びかけていました。

また、交通指導車のマイクを使って「お酒を飲んで運転しないでください」「携帯電話を使いながら運転しないでください」と呼びかけ、ドライバーは笑顔で応えていました。小さい命を守るために安全運転を心がけましょう。

townics

まちのわだい

美しい音色が響き渡った
モンゴル発「馬頭琴」のコンサート

7月3日、中央公民館で青少年芸術劇場「チ・ブルグッド馬頭琴コンサート」が開催され、町内の全小・中学生約440人がプロの演奏に聞き入りました。

この行事は、地域の児童・生徒に生の優れた芸術を鑑賞してもらおうと毎年開催されています。



モンゴル出身のチさんは、世界各地で馬頭琴の演奏を行っていて、今月開催される北京オリンピックの開会式でも演奏に参加するそうです。

チさんは、「昇る太陽」や「スーホの白い馬」など8曲を演奏し、演奏終了後は子ども達に握手をしながら見送ってくれました。

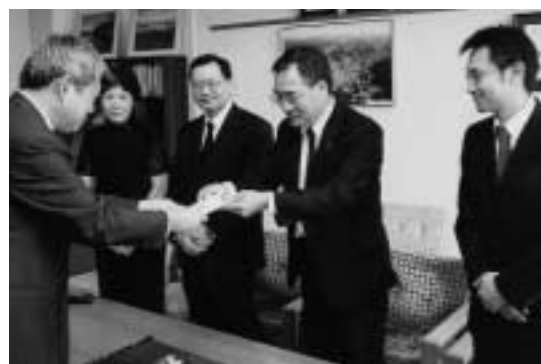
7月20日、21日に、元オリンピック選手の岩谷高峰さんがインストラクターとなりグレステンスキー講習会が行なわれ、道内各地からスキー少年団やスキー愛好者38人が集まりました。

初日は、初心者と経験者に分かれて指導を受け、初心者はスキーの基本動作を、経験者はスキー技術のレベルアップを目標に真剣な表情で指導を受けていました。

初めはぎこちない滑りだった子どもたちも、岩谷さんの適切なアドバイスを熱心に聞き、冬の感覚を取り戻し見事な滑りをしていました。



元・五輪選手から直々の指導
グレステンスキー講習会開催



寄付の目録を手渡す小野寺栄司さん

農業・産業振興に役立ててください
町に100万円を寄付

6月25日、北見市留辺蘂町の小野寺栄司さんが町に100万円を寄付されました。母親で今年5月に91歳で亡くなられた故小野寺トシ子さん（前日冷青果物出荷センター社長）が生前、津別でお世話になったお礼として、「津別町の農業・産業の振興に役立てていただきたい」と寄付。栄司さんによると生前、トシさんは「津別が一番好き」と話していたという。ご厚志に対し佐藤町長からは「有益に使わせていただきます」とお礼を述べていました。

6月中旬から共和21世紀の森にある史跡「ツベツトウンチャシ」（チャシは、アイヌ語で「砦」などを意味する）で試掘調査が行なわれました。

同様のチャシ跡は陸別町にもあって貴重な出土品が多く確認されています。調査では美幌博物館学芸員の小野基さんの指導の下、10人ほどの作業員が細かく区画された地面の土を慎重に取り除く作業を行っていて、刀のツバ、鏝の部品や小刀などが出土していました。試掘調査は、7月中旬まで続けられ、貴重なアイヌ文化や年代の解明がされるものと期待されています。



チャシ跡の試掘調査始まる
アイヌ文化や年代を探る

議員定数を2減
来年2月の選挙より施行



津別町議会は、6月24日に開かれた第3回定例会において、議員定数を現行12から2減して10とする条例改正案を可決しました。

これまで議会運営委員会や議員協議会などで見直しを検討され、今回の改正案を提出した中右龍夫議会運営委員長は「近隣自治体や町の状況などを総合的に判断し結論とした。定数削減による常任委員会の数や報酬などの見直しも検討してきたが、さらに議論を詰めて年内に結論を出したい」としています。

今回の定数条例の改正により、来年2月に行われる選挙では10人の議員を選ぶこととなります。